

Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶ 心身障害者福祉会しいの実

私たちの日々の活動は、活動先ごとに6つに分かれています。和泉キャンパスの近くにある「永福南児童館」と「和泉児童館」では、ボードゲームや運動などの遊びを通して児童と接しています。児童館という同一の分類ではありませんが、施設の方針や職員の方の姿勢、内装、雰囲気は全く異なり、それぞれ活動しています。障がい者支援では、養護学校を卒業した後も障がいを抱えた方々が参加できる場「さんなん会」での活動があります。活動場所は、杉並区立済美養護学校で、障がい者の方が自立性を育むことができるよう、空き缶つぶしやボールペン組立などの支援をしています。また、済美養護学校の体育館では、「たまもスポーツクラブ」という運動指導も行っています。障がいを抱えた子どもたちと一緒にストレッチをするなど、体の動かし方を教えています。スポーツといえば、電動車いすサッカーチーム「F.C.エレキング」のお手伝いもしています。国立駅近くで活動しているチームのスタッフとして、練習施設の準備や試合

活動内容

「和泉児童館」 ボードゲーム



「永福南児童館」 ドッジボール



東京都障害者スポーツ大会にてスタッフ集合写真

心身障害者福祉会しいの実

心身障害者福祉会しいの実は、1970年に創設された対人ボランティアサークルです。児童館や障がい者支援施設などの6つに分かれて対人ボランティア活動に従事しています。明治大学にはいくつかのボランティアサークルが存在しますが、それぞれ活動内容が異なり特色があります。ここでは、私たち「しいの実」の魅力を少しでも感じていただければ幸いです。

心身障害者福祉会しいの実 HP http://www.geocities.jp/shiinomi_meiji/

文学部4年 中村 慎吾 (幹事長)

の運営などに携わっています。「介助」では、脳性麻痺を持つご夫婦のご自宅に伺い、食事や入浴などの身の回りの生活のお手伝いをしています。以上の6つの活動を月1回〜週3回程度、各部門がそれぞれの頻度で行っております。活動先ごとに年に数回イベントや大会などがあるため、我々も参加させていただいています。また、年に一度行われる東京都障害者スポーツ大会にも、選手サポーターなどの立場で運営に携わらせていただいています。その他にも、ボランティアの依頼をいただいた場合には、随時それに対応する形で活動しています。ボランティアに興味を持った他大学の学生からご連絡をいただくこともあり、そういった方を施設に紹介することもあります。ボランティアという活動上、私たちが直接大会に出場し、具体的な実績を残すということはほぼありません。しかし、活動を続けていく中で、私たちの活動を評価してくださることもあります。これまでに、一般社団法人日本善行会や杉並区長など多数団体から表彰していただいております。直接的、短期的な成果が表れにくい私たちの活

動ですが、評価していただけることをありがたく思います。

起源は手品サークル…らしい

現在では対人ボランティアという軸を中心に幅広く活動しているしいの実ですが、その起源は手品(マジック)サークルだったと言われています。これは、代々先輩方から口伝されていることですが、根拠となる資料などは存在しないため、詳細は不明です。もしかしたら単なる噂かもしれません。しかしながら、事実として受け止める、手品サークルからボランティアサークルへとその活動を変容させていったことに、私自身、深い意味を感じています。この変容の原因として考えられることのひとつが、手品を披露するために施設を訪問する過程で、その施設で手品以外の活動を請け負うようになったというものです。つまり、施設を訪問する中で、その利用者や運営者との関わりを深め、そのニーズに添えていったということが言えるのではないのでしょうか。

現在、ボランティアサークルとなつたしいの実ですが、このニーズに添え

多様な目標

先の項でボランティアそのものに実体が無いと述べました。具体的に何をすれば、ボランティアをしたことになるのかは、なかなか説明しづらいものがあります。他のボランティアに携わる方々からすれば、私たちの活動はボランティアではないと指摘を受けるかもしれません。そういうことも関連してか、しいの実にはボランティアを行うにあたって様々な動機や背景を持つ部員が在籍しています。教員志望として児童・障害者福祉に関心を持つ者、2011年3月11日の東日本大震災をきっかけにボランティアに興味を持った者、単に子どもが好き、しいの実の雰囲気の魅力などその動機は様々です。こうした多様な動機を持つ人々の集まりであることが、しいの実の大きな魅力の一つと言えるでしょう。

活動させていただいている施設によって、目指しているものや理念はそれぞれ異なります。そして、それに即した要請を受けて、様々な形で添えていくのが私たちの活動です。しかし、その活動を通して、どんなものを得た

「介助」 食事補助



「F.C.エレキング」 練習試合

「たまもスポーツクラブ」 ストレッチ



「ごんなん会」 空き缶つぶし

るといふ精神は非常に重要なものだと思います。ボランティアという活動は実体を持ち得ません。社会や施設が求めることを行って初めて、実体を持ち、具体的な活動を行うことができます。しいの実には様々な動機で活動する部員があり、各活動の目的や目標も異なります。その一方で、私たちは求められたことに添えるということできていると思います。この「ニーズに添える」という核となる精神が、手品サークルからの転身以来、続いているのかもしれない。

今後、いろいろな活動を通して、要望や必要に添えていく中で、ボランティアがメインではないサークルに変わることもあるかもしれません。20年後にはダンスサークルやコスプレサークル、あるいはプロレスサークルなどに転身している可能性も否めません。私としては、サークルの形が変わっても、人や社会の「ニーズに添える」精神だけは受け継いでもらいたいと思います。もし、この記事を読んだ方の中に、しいの実の起源について何かご存知の方がいらっしゃれば、ぜひご一報ください。

いかは部員次第です。例えば、イベントの司会でプレゼン力を鍛える、レクレーションの計画で企画力を養う、あるいは社会人とのやり取りでメール、手紙の書き方や作法について学ぶなど、意識をすれば自らの成長に活かせることは多々あります。また、どの活動も社会人と直に接することが多く、フィードバックも得られるなど、社会人との関わりが多いことも、しいの実の魅力だと思います。

英語の「volunteer」には元々「自発的に行う」という意味があるそうです。しいの実は自発的に何かを行う場と機会を提供するサークルです。その活動を通して、どんな自分になりたいか、何を感じ、学びたいかは、部員それぞれです。そして、それが否定されることもなければ、他の部員と共通である必要もありません。しいの実において、対人ボランティアというあまりにも曖昧な概念に対して、具体的な活動と意義という実体を与えるということは、社会にとって真に必要なものに、何とかして添えようとする姿勢と、それを通じて学ぼうとする意志だと、私は思います。